

KDDI オペラスペシャル

メトロポリタン・オペラ

The Metropolitan Opera



メトロポリタン歌劇場管弦楽団・合唱団

General Manager: Peter Gelb Music Director: James Levine The Metropolitan Opera Orchestra and Chorus

世界が注目する大型ソプラノ 日本でオペラを歌えることが心から嬉しく、
日本オペラデビュー！ 今からとても楽しみにしています。

ディアナ・ダムラウ

インタビュー！ (ルチア役/ソプラノ)

Q: ご出産、おめでとうございます！

ダムラウ: ありがとうございます！可愛い男の子が生まれました。名前はアレキサンダーです！

Q: 妊娠中もオペラに出演なさっていらっしゃいましたが、妊娠しているときと、普段と歌い方に違いはありましたか？

ダムラウ: そうですね、妊娠中は動くことも、少々大変でしたから！(笑)。でも歌い方には何も違いはありませんでした。おなかの赤ちゃんは、いつもいい子にしてくれていて、私のすることをちゃんと一緒にしてくれました。ですから、幸いなことに何の問題もありませんでした。

Q: ご出産後も、あまり日をおかずにオペラに出演なさると聞きましたが・・・

ダムラウ: 来年からまた歌い始めます！まずは2月に「清教徒」のエルヴィーラ役、3月にはMETで新しいプロダクションの「オーリー伯爵」のアデル役を歌います。その後「ランメルモールのルチア」をスペインのビルバオで歌ってから、METの素晴らしいプロダクションで日本に行きルチアを歌います。

Q: METへの出演が続き、強い絆を感じます。2005年METにツェルビネッタ役でデビューすることが決まったときの気持ちをお聞かせください。

ダムラウ: ツェルビネッタの役は、ルチアの狂乱の場と同様、約15分間全く一人で演じ、歌わなければなりません。非常にヴィルトゥオーソな役を、METの伝統ある舞台上、オペラに造詣の深い聴衆の前で歌うということは・・・まず大変に緊張しました！(笑)。しかし、どんなに大きなオペラハウスであろうが、たった一人の聴衆のためにでも、私自身のためだけに歌うときも、私はできるだけ美しく歌うように努力します。さらにきれいに歌うだけでなく、作品を解釈し表現すること、ストーリーを語り、その登場人物の役を感じ取り、私の表現でその名作の素晴らしさを伝える喜びがあります。



Diana Damrau



© Michael Tammaro
Tanja Niemann
John Palmer

彼のその冷たい怒りの態度は大きな衝撃でした。そして結婚相手を初夜に殺害し、狂気に至るのです。もちろん私の声で、この音楽を表現しなければならぬわけですが、どのカデンツァを歌い、どういう気持ちで歌うかは、まずこの役の性格を理解することが大切でした。

Q: この役はMETですすでにお歌いになっていますよね？

ダムラウ: ええ、ネトレブコが出産をひかえてキャンセルしたときに、METからこの役を代わりに歌わないかと提案があり、METでこの役を初めて歌いました。本当に素晴らしい体験でした！この役を今度METの日本公演で歌えることは、私にとって、とても大きな喜びです。

Q: オペラで来日するのは初めてですね？日本のファンが、今か今かと待ち望んでいますが、日本のファンにメッセージをお願いします。

ダムラウ: 日本は古い文化のある素晴らしい国で、その文化に触れること、たくさんのオペラファンの皆様にお会いできることを、今からとても楽しみにしています！

Q: 最後の質問です。ダムラウさんの心の一曲。原点に立ち戻れる作品は何でしょうか？

ダムラウ: 難しい質問ですね。。私にとって大切なオペラは「ランメルモールのルチア」と「椿姫」です。特に「椿姫」は私の原点ともいえます。私がオペラを好きになるきっかけとなった作品ですから。私は12歳の時、テレビでゼッフィレリィの映画「椿姫」を見ました。見終わった後に感動して泣き、そして、神様に毎日祈りました。「私もいつかあのように歌えるようになりたい！」と。幸いなことに、私の才能が足りて、歌うことができるようになりました。私たちの職業は、常に練習し勉強しなければなりません。身体に気をつけて、よいコンディションを保たなければなりません。これからも、できるだけ長くこの喜びを続けていきたいと思っています。

Q: 今回のMETとの来日では《ルチア》を歌われるわけですが、ルチアの間人像をどのように捕らえて演じられますか？

ダムラウ: 私は《ルチア》を歌うにあたり、自分なりに準備をしました。というのも、私はそれまで「狂乱の場」のある役を歌ったことがなかったからです。

《ルチア》はコロラトゥーラですが、必ず何かを表現しているのです、単なるヴィルトゥオーソなテクニックだけを披露していれば良いということはありません。必ず何かの特別な気持ちと結びついています。そしてこの気持ちは、ルチアの性格に関係しています。狂乱してしまう彼女の

性格を理解するために、私は精神科のドクターと話し合い、私が予想していたように、彼女は最初から「狂乱」する病気の要因、つまり「両極端な性格」であったという結論に至りました。

両極端な性格とは、気持ちが高まると、それはヒステリックなほどの喜びまでに高まり、しかし、落ち込むとどん底まで沈んでしまうという性格です。これが1幕の最初のアリア「静かなる夜(あたりは沈黙にとざされ)」、泉にまつわる昔話を語り彼女の見える亡霊について話すシーンに出ています。そしてエドガルドへの愛がつのり、彼と暮らしたい、結婚したいという望みが高まっていき「この上なく燃える恋」になっていきます。当時の女性の生活は、自分の力だけではどうにもならず、男性の力により導かれていました。彼女の気持ちや望みは、誰にも興味を持たれない操り人形のように・・・彼女は社会の、男性社会の犠牲者だと言えるでしょう。偽りのエドガルドからの手紙で欺かれ、望まない政略結婚を受け入れざるをえなくなった彼女の前に、エドガルドが現れ、ルチアは天国と神を冒涇したと言われます。信仰は彼女にとって大切な要素でした。エドガルドだけを愛し、エドガルドとの神聖な結婚を望んでいたルチアには、

ドニゼッティ 全3幕 ランメルモールのルチア 【上演時間約3時間10分/休憩2回含む】

Donizetti Lucia di Lammermoor



ヴェルディ ドン・カルロ

全5幕 イタリア語版

【上演時間約4時間35分／休憩2回含む】

The Metropolitan Opera

こんなにスゴイ

「今回のMET来日公演の一番の特徴は、“豪華キャスト”です。もちろんMETでは常に偉大な歌手が出演しているのですが、今回のツアーは特別です。特に「ドン・カルロ」は、キャストすべてにベストの歌手が揃いました」と総裁のP. ゲルブ氏は胸を張った。日本公演では、現時点で望みうる「主役級ベスト歌手5人」がずらり顔を揃えることになる。

なかでも父王フィリッポ2世とその王子ドン・カルロから、熱烈な想いを寄せられる薄幸の王妃エリザベッタは重要な役どころ。王妃を演じるバルバラ・フリットリに役柄に寄せる想いを聞いた。

「エリザベッタは私の大好きな役です。彼女は非常に情熱的な女性で、ある日、森の中で偶然出会った王子に一目惚れする。しかし略略結婚の犠牲になって、その父との結婚を受け入れなければならなくなる。本来ならこの結婚を受け入れたくない彼女ですが、第1幕の冒頭で、貧困にあえぎ、平和を願うスペインの農民に出会ったことで、自分の意志を押し殺し、老王との結婚を受け入れる。それが自分の義務だと使命を悟るのです。そ

の意味でエリザベッタは、自分を犠牲にしてドン・カルロとの愛を諦める強い女性なのです」フリットリは、イタリア伝統のベルカント唱法とスタイルを継承する、正統派ソプラノ。役柄を厳選し、役になりきってキャラクターを巧みに表現することでも定評がある。「役を選ぶ上で重要なのは、自分の声をよく知り、声の限界を超えないことです。また自分の声の欠点や問題を自覚するという謙虚さも必要です。心理的にそのキャラクターにのめり込めるかどうかは決め手です」。フリットリは役柄を理解するために、

歴史を勉強し、文献を調べて当時の衣裳なども研究し、ときには可能な限りゆかりの地にも足を運んで、役柄のインスピレーションを得るといふ。エリザベッタを歌うにあたっては、スペインのエル・エスコリアルを訪れて、フィリッポ2世やエリザベッタの墓にも詣でた。「今回は5幕版ですが、エリザベッタは5幕に最も重要なアリアがあるので、最後まで緊張感を保つのが大変です。また衣裳も豪華で重いので、体力も必要です」と語っている。

「ドン・カルロ」には王子をめぐって激しい女の闘いを演じるもう一人の美女が登場する。その絶世の美女、エポリ公女を歌うオリガ・ボロディ



バルバラ・フリットリ
(エリザベッタ役/ソプラノ)

Barbara Frittoli



Olga Borodina

オルガ・ボロディナ
(エポリ公女役/メゾ・ソプラノ)

隅から隅まで～凄いキャストが揃いました！

《ラ・ボエーム》
マルチェロ役

マリウシュ・クヴィエチェン
(バリトン)



Mariusz Kwiecień

METの育成プログラム（リンデマン・ヤング・アーティスト・デベロップメント・プログラム）を修了したMETの秘蔵子。1999年《カーチャ・カバノーヴァ》のクリギン役でMETデビュー。これまでにウィーン国立歌劇場、コヴェント・ガーデン、バイエルン国立歌劇場、ポリショイ劇場など世界の歌劇場を舞台に歌っている。《ラ・ボエーム》のマルチェロ役は彼の十八番とも言うべき作品。若い芸術家の風情、ムゼッタとの愛のかけひき、ミミとロドルフォを見守る人間的な魅力を、歌で紡いでくれるだろう。

《ラ・ボエーム》
コリーネ役

ジョン・レリエ
(バス・バリトン)



John Rejzka

《ファウストの劫罰》のメフィストフェレス役では奔放と狂気、フィガロ役では純粋とスマートさ一と、どの役でも説得力ある歌と舞台姿が印象に残るバス・バリトン。METには2000年《チェネレントラ》のアリドーロ役でデビュー。これまでにウィーン国立歌劇場で《ホフマン物語》の悪役4役、コヴェントガーデン、パリ・バステュー、シカゴリリックオペラ、ロサンゼルス・フィル、クリーブランド管などから目撃されたこの注目株。長身とハンサムな容姿でも日本を魅了すること間違いなし！

《ルチア》
エンリーコ役

ジェリコ・ルチッチ
(バリトン)



Željko Lučić

苦悩のささやきから自信に満ちたフルボイスまでを見事に歌い分け、演じるバリトン。2006年《ラ・ジョコンダ》のバルナバ役でMETデビュー。これまでにMETでは新演出版《マクベス》（これはライブビューイングが世界各地で上演され、DVD化された）と《リゴレット》のタイトルロール、《椿姫》のジェルモン役、《イル・トロヴァトーレ》のルーナ伯爵役などを歌い高い評価を得ている。今回はルチアを政争の具と扱い、狂乱へと追いやる・・・冷血な策道家エンリーコ役を演じきってくれるだろう。

《ルチア》
ライモンド役

イルダール・アブラザコフ
(バス)



Idar Abdrashitov

深く重くまろやかな声色が心に響くロシア出身のバス歌手。2004年の新演出版《ドン・ジョヴァンニ》のマゼット役でMETデビュー。以来《ファウストの劫罰》のメフィストフェレス役、《アルジェのイタリア人》のムスターファ役などを歌っており、今シーズンは《ホフマン物語》悪役4役のMETロールデビューが予定されている。マリインスキー劇場出身、若い時からスカラ座で歌い、METでも活躍するキャリアはMET伝説の歌手、シャリアピンを思い起こさせる。



同時に、巨大スクリーンが設置されたタイムズスクエアとリンカーンセンターには無料シートと立見スペースが用意され、NYの街をオペラジャック！その様子は日本でもNHKニュース、新聞などで報道されました。「野球の試合のテレビ中継を見た人たちは、いつか本場の野球場に行きたい！」と思うようになる。それと同じことがメトロポリタン・オペラにも起きている」と語るメトロポリタン・オペラ総裁ピーター・ゲルブ氏の言葉どおり、オペラが再び社会の注目を集め始めています！

METライブビューイング

2010年9月27日、NYメトロポリタン・オペラの新シーズンがロバート・ルパージュ新演出版の「指環」序夜《ラインの黄金》で開幕しました。シャガールが描いた2つの巨大タペストリー「音楽の勝利」「音楽の泉」、輝くシャンデリアが、正装したセレブたちを迎え、華やかな一言、と同時に、巨大スクリーンが設置されたタイムズスクエアとリンカーンセンターには無料シートと立見スペースが用意され、NYの街をオペラジャック！その様子は日本でもNHKニュース、新聞などで報道されました。

「野球の試合のテレビ中継を見た人たちは、いつか本場の野球場に行きたい！」と思うようになる。それと同じことがメトロポリタン・オペラにも起きている」と語るメトロポリタン・オペラ総裁ピーター・ゲルブ氏の言葉どおり、オペラが再び社会の注目を集め始めています！

メトロポリタン・オペラ最新の12演目をスクリーンで！

METライブビューイング 2010-2011

ドニゼッティ
《ドン・パスクワレ》
12/4(土)～12/10(金)
*ネトレブコ、クヴィエチェン出演

ヴェルディ
《ドン・カルロ》
1/8(土)～1/14(金)
*日本公演と演出が異なります。

プッチーニ
《西部の娘》
1/29(土)～2/4(金)

アダムズ
《ニクソン・イン・チャイナ》
2/26(土)～3/4(金)

グルック
《タウリスのイフィゲニア》
3/19(土)～3/25(金)

ドニゼッティ
《ランメルモールのルチア》
4/9(土)～4/15(金)
*カレーヤ出演

ロッシーニ
《オリー伯爵》新演出
5/7(土)～5/13(金)
*ダムラウ出演

R.シュトラウス
《カプリッチョ》
5/14(土)～5/20(金)

ヴェルディ
《イル・トロヴァトーレ》
5/28(土)～6/3(金)
*ホロストフスキー出演

ワーグナー
《ニーベルングの指環 第1夜》
《ワルキューレ》
6/11(土)～6/17(金)
*カウフマン出演

「MET」来日公演までのカウントダウン！
Road to the Met by KDDI
毎週日曜オンエア！
ここでしか聴けないMET直送のアーカイブ音源を毎週放送！日本公演をより楽しむための情報が満載！！

新宿ピカデリー・東劇他全国上映中！

配給：松竹 公式HP www.shochiku.co.jp/met/

奇跡のキャスト!

ナは、ピロードのようななめらかな艶やかな声を持つメゾ・ソプラノ。今回は色っぽい黒眼帯をつけての登場だが、自分の美貌を激しく呪うアリアが聴きどころだ。

男性陣ではフィリップ2世をはじめ、ノーブルな貴公子ポーサ侯爵ロドリゴ、タイトルロールのドン・カルロと魅力的な男性たちが登場する。じつは今回の見どころの一つが、声はもちろんだが、美形テノール、美形バリトン、美形バスが揃うこと。その筆頭が、エリザベッタとの愛を諦めきれずに悩む、ドン・カルロを演じるヨナス・カウフマン。いま欧米の歌劇場からひっぱりだこの、スタイリッシュな歌唱と輝かしい高音、情熱的な歌い方を身

石戸谷結子 (音楽ジャーナリスト)

につけた実力派テノールだ。

ドン・カルロの親友ロドリゴは、理想に燃える貴公子で、王子の身代わりになって殺される凛々しい役。演じるのは朗々とした美声と演技力にも定評のあるディミトリ・ホロストフスキー。そして悩めるフィリップ2世を歌うのが、ルネ・パーペだ。深い表現力と豊かな音量を持ち、どんな役でも歌えるフレキシビリティを持った現代最高のバスだ。

MET版「ドン・カルロ」は、イタリア語5幕版で、スペインの歴史を踏まえた重厚な舞台も見せどころ。レヴァイン指揮のもと、豪華キャストの声の競演が繰り広げられる。



ヨナス・カウフマン
(ドン・カルロ役/テノール)



Jonas Kaufmann

© Uli Webber



Dmitri Hvorostovsky

ディミトリ・ホロストフスキー
(ロドリゴ役/バリトン)



René Pape

ルネ・パーペ
(フィリップ2世役/バス)

舞台写真 © Ken Howard

★チケットご購入にあたって 出演者等、記載の内容は2010年11月20日現在の予定です。病気、怪我等の事情で出演者が変更になる場合がございます。最終出演者は当日発表とさせていただきます。公演中止の場合を除き、チケットのキャンセル・公演日の振替等はお受けいたしかねますので、あらかじめご了承下さい。ご承諾をいただけない場合は、当日券のご利用をお願い申し上げます。(売り切れの席種は当日券はございません。)

演目	公演日 2011年	料金 PRICES (消費税込)
プッチーニ ラ・ボエーム Puccini: La Bohème 指揮: ジェイムズ・レヴァイン	6月8日(水) 19:00 NHKホール	一般料金 S¥64,000 A¥57,000 B¥49,000 C¥40,000 D¥32,000 E¥24,000 F¥16,000 ジャパン・アーツ夢倶楽部会員料金 S¥62,000 A¥55,000 B¥47,000 C¥39,000 D¥31,000 E¥23,000 F¥15,000
	6月11日(土) 15:00 NHKホール	
	6月17日(金) 19:00 NHKホール	
	6月19日(日) 19:00 NHKホール	
ヴェルディ ドン・カルロ Verdi: Don Carlo 指揮: ジェイムズ・レヴァイン	6月10日(金) 18:00 NHKホール	一般料金 S¥30,000 A¥25,000 B¥20,000 C¥15,000 D¥10,000 ジャパン・アーツ夢倶楽部会員料金 S¥29,000 A¥24,000 B¥19,000 C¥14,000 D¥9,000
	6月15日(水) 18:00 NHKホール	
	6月18日(土) 15:00 NHKホール	
ドニゼッティ ランメルモールのルチア Donizetti: Lucia di Lammermoor 指揮: ジョナンドレア・ノセダ	6月9日(木) 18:30 東京文化会館	一般料金 S¥30,000 A¥25,000 B¥20,000 C¥15,000 D¥10,000 ジャパン・アーツ夢倶楽部会員料金 S¥29,000 A¥24,000 B¥19,000 C¥14,000 D¥9,000
	6月12日(日) 15:00 東京文化会館	
	6月16日(木) 18:30 東京文化会館	
	6月19日(日) 12:00 東京文化会館	
MET管弦楽団特別コンサート Special Concert 指揮: ジェイムズ・レヴァイン ソプラノ: アンナ・ネトレブコ バリトン: マリウシュ・クヴィエチェン	6月14日(火) 19:00 サントリーホール	一般料金 S¥30,000 A¥25,000 B¥20,000 C¥15,000 D¥10,000 ジャパン・アーツ夢倶楽部会員料金 S¥29,000 A¥24,000 B¥19,000 C¥14,000 D¥9,000

◎ジャパン・アーツびあでは、各種クレジットカード(AMEX以外)でのご精算をお受けいたします。◎車椅子スペースを車椅子をご利用の方は、ジャパン・アーツびあまでお問合せ下さい。(台数制限あり)

名古屋公演 ラ・ボエーム 6月4日(土)15:00 愛知県芸術劇場 チケット残り僅か!! お早めにお求め下さい。 お問合せ/中京テレビ事業 052-957-3333 www.cte.jp/

お申込み

ジャパン・アーツびあ (12/29~1/3を除く)
(03)5237-7711 (毎日10:00~18:00/土日営業)
www.japanarts.co.jp

テレビ東京チケット事務局
(03)3435-7000 (平日10:00~18:00)

学生券のご案内 (各ランク半額)

残券がある場合に限り、4/9(土)10:00よりジャパン・アーツびあ (03)5237-7711にて電話受付いたします。社会人を除く公演当日25歳までの学生が対象です。入口にて学生証を拝見いたします(学生証がない場合、一般料金との差額をいただく場合がございます)。(夢倶楽部会員の方も学生券は一般価格の半額です。)

2011年2月上旬 二次受付予定

カメラ席等の開放があった場合、ジャパン・アーツびあで追加販売いたします。詳細は1月中旬にホームページに掲載します。

【次のことをあらかじめご承知の上、チケットをお求め下さいませ。】

- ①開演時間に遅れますと休憩まで長時間入場をお待ちいただくことになります。時間には余裕を持ってお越し下さい。
- ②ご入場には1人1枚チケットが必要です。また未就学児の入場はご遠慮下さい。
- ③本公演は全席指定です。お持ちのチケット以外の座席ではご覧いただけません。
- ④場内での写真撮影・録音・録画・携帯電話等の使用は、固くお断りいたします。
- ⑤本公演の字幕は舞台の両脇に掲出されます。一部の席で見えづらな場合がございます。
- ⑥ネットオークションなどによるチケットの転売は、トラブルの原因になりますのでお断りいたします。
- ⑦チケットの再発行は致しません。紛失されませんよう、ご注意下さい。

au by KDDI Create it!

Android™ au

with Google™

IS03

おサイフケータイ®

Flash™ Lite 4.0

ワンセグ

9.6Mカメラ

赤外線通信

デコレーションメール

※EZwebには対応していません。※ISO3はシャープ株式会社の製品です。※画面はイメージです。※「Google」、「Google」ロゴ、「Android」は、Google Inc.の商標です。※「Flash™ Lite」はAdobe Systems, Inc.の米国及びその他の国における商標または登録商標です。※「おサイフケータイ」は、株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモの登録商標です。

お問い合わせ先: auお客様センター au携帯電話からは157(無料) ☎0077-7-111(無料) オペレーター受付時間 9:00-20:00 auHP: http://www.au.kddi.com KDDI株式会社

私は、
プッチーニの音楽に
忠実でありたい……

Anna Netrebko

2010年9月英国ロイヤル・オペラ公演は【ネトレブコの独壇場】だったと言っても過言ではないだろう。贅沢で奔放で破滅的な「マノン」で客席をしばれさせたばかりでなく、予定されていなかった「椿姫」にも出演！その女優プリマぶりを披露して、「世界のプリマドンナ」を強烈に印象づけてくれた。

ネトレブコの潤いに満ちた艶やかな声、ひとつひとつの場面を真実に感じさせてしまう演技力、そしてなによりもステージにただで吸い寄せられてしまう強烈なオーラ。

とにもかくにも、ネトレブコが舞台にただで、観客は彼女の虜になり、彼女が演ずる役に共感し、会場は熱狂してしまう……そんな真正正銘のプリマドンナ、それがアンナ・ネトレブコだ。

そんなネトレブコが、今や伝説とも遺産とも称されるゼッフィレリ演出「ラ・ボエーム」のミミで登場する。可憐に純粋に歌う「私の名はミミ」、愛の日々を懐かしみつつも恋人ロドルフォとの別れを歌う「さようなら」の悲哀、そしてロドルフォのもとで迎える最期一。

世界を熱狂させるプリマドンナ アンナ・ネトレブコ

(ミミ役/ソプラノ)

来年のMET公演に向けて、今年3月アンナ・ネトレブコにインタビューしました。

Q: 来年METでの「ラ・ボエーム」で来日して下さいますが、これは約30年前のプロダクションですね。伝統的な舞台で演じることにについてどのように思いますか？

ネトレブコ: 今度出演するゼッフィレリ演出のものは、私たち歌手にとって、最も歌いやすいプロダクションです。指揮者が誰であれ、歌手が

誰であれ成功することが保証されているのですもの(笑)！

でも、初めてこの舞台で歌った時はこれまでも多くの偉大なソプラノ歌手たちが、この舞台に立っていますから、その名に連なることの名誉とプレッシャーを感じたこともありました。。

Q: ミミという役柄に対して自分なりの解釈を、どのように出そうと考えていますか？

ネトレブコ: 私自身は色々しているわけ

ではなく、プッチーニの音楽に忠実であろうとしているのです。

音楽から感じたことを直接、台詞や歌を通して伝えるという、きわめてシンプルなプロセスで演じています。

Q: 世界中のオペラハウスで歌われている中で、METの特徴というものはどういったところにあるのか。そしてレヴァインというマエストロも素晴らしい方ですが、彼の特徴をどのように感じているか教えてください。

ネトレブコ: METの舞台に立つということは、私のホームグラウンドで歌うというくらい嬉しく、自然なことなので、たいしたことは言えないのですが……。METはあらゆる意味で世界有数のオペラハウスだと思います。さまざまな面でMETはうまく軌道に乗っていますし、これからもそうであって欲しいと願っています。マエストロ・レヴァインについては、素晴らしい指揮者であり、音楽的に信頼しています。今シーズンは「ドン・バスクワレ」で共演する予定になっていて、今からとても楽しみにしています。



ネトレブコ、ダムラウの相手役……“永遠の恋人” ロドルフォ役、エドガルド役を務めるのはこの二人！

ピョートル・ベチャワ

(テノール 6/4, 8, 11, 16, 19出演)

端正で美しい声が魅力のテノール。チューリッヒ歌劇場で認められ、参加した来日公演ではその柔らかい美声が注目を浴びた。他にもウィーン国立歌劇場、スカラ座、英国ロイヤルオペラなどでも活躍、ザルツブルク音楽祭にも参加している。METには2006年に《リゴレット》の公爵役でデビュー。その後《ラ・ボエーム》のロドルフォ役、《エフゲニー・オネーギン》のレンスキー役、《ランメルモールのルチア》のエドガルド役を歌い絶賛されている。2010/11年には《ロミオとジュリエット》のロミオ役、《ラ・ボエーム》のロドルフォ役を演じることが決まっており、METの看板テノールとしての存在感を増している。



Piotr Beczala

ジョセフ・カレーヤ

(テノール 6/9, 12, 17, 19出演)

甘く明るい声で観客の心をつかむ注目の大型テノール。小さい時から歌が好き！合唱団員として舞台に立っていたが、ウィーン、ミラノのコンクール、ドミンゴのオペラリアで優勝し、ウィーン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界各地で歌うようになる。METには2006年に《リゴレット》の公爵役でデビュー。昨シーズン出演したバートレット・シャー演出によるMET新演出版《ホフマン物語》のタイトルロールでは陰影に富んだ心理描写が、4月に新国立劇場で歌った《愛の妙薬》のネモリーノ役は純朴で愛すべき存在感が称賛された。

来たる2010/11年シーズンは、《ラ・ボエーム》のロドルフォ役、《ランメルモールのルチア》のエドガルド役を現地NYと日本で披露する。

